

令和2年度 第2回長野市社会教育委員会議 要旨

【日 時】 令和3年1月15日（金） 午後2時00分から

【場 所】 市役所第一庁舎7階 第一、二委員会室

【出席者】 委員 山岸委員長 伊藤副委員長 藤原委員 金田委員 小松委員 原田委員
小澤委員 福田委員

職員 近藤教育長 永井教育次長 西沢篠ノ井交流センター所長 原山鬼無里
公民館専門員 小池家庭・地域学びの課長 堀内家庭・地域学びの課長補
佐 奥野家庭・地域学びの課長補佐 宮崎家庭・地域学びの課係長 早川
家庭・地域学びの課主事 平野社会教育主事

【協議事項】

- (1) 長野市交流センターのモデル施設の追加について
家庭・地域学びの課より、資料1に沿って説明
- (2) 成年年齢引き下げ後の成人式の対象年齢について
家庭・地域学びの課より、資料2に沿って説明
- (3) 公民館・交流センターにおける新型コロナウイルス感染拡大防止対策と運営について
家庭・地域学びの課より、資料3、4に沿って説明

主な内容（質疑・意見）

【協議事項】(1)について

質疑なし

【協議事項】(2)について

（委 員） 資料2の4頁の他市の状況で、県内18市について21歳と記載されている1市とはどこか。

（事 務 局） 21歳の1市は飯山市である。例年、20歳から21歳の年齢を成人式の対象としている。

（委 員） 今年の成人式の実情を見ると、開催の可否を各地区の判断に任せており、直前まで決まらない状況が新聞やニュースから伺えた。

市の教育委員会が事業として進めるのが成人式とするならば、市がリーダーシップをとって進めるべきものではないかというのが率直な印象。これが地域の事業として、住民自治協議会などに判断を任せるならそれで良いが、どのような区分になっているのか疑問である。市が事業として挙げているものならばもっと統一性があっても良いのではないか。

（事 務 局） 成人式は公民館・交流センターが主催しており、共催として各地区の住民

自治協議会等に携わってもらっている。また、地区によっては地元の新成人の方にも開催に関わってもらっている。開催に当たっては、夏期開催の館があるなど、時期についても地域で異なっており、すべての地区の成人式について統一的な方針を出すことは難しいという現状の中で、今回、このような対応となっている。今後は各地区の話も聞きながら、開催方法について研究していく必要があると感じている。

(委員) 長野市は合併により地区数も多くなっているのですが、事業を地域に任せていった方がスマートになっていくのではないかと。市が重要と考える事業であれば、市としての方針がもっと表に出ると思う。現段階では、成人式の意図、意味、意義が明確になっていないと感じる。昔から開催しているからやるといふ姿勢では時代にそぐわない。

(委員) 安茂里地区の成人式は、リモートで開催するというので、学生と住自協が中心になって進めていたが、今後のデジタル化において参考となる事例であり非常に良かった。この場合、学生と住自協が自主的に組織を立ち上げたのか。市へ開催方法について諮るのか。

(事務局) 式の開催方法等は各館に一任しており、家庭・地域学びの課がとりまとめをしている状況である。

(委員) 成人式においては、予算的な部分と責任の管轄について、住自協と市教委の連携は不可欠だと感じる。どのように意思決定を行うかなど、より良い連携の形を考えていくことが大事だと思う。

(委員) 18歳だと受験や就職と重なるという意見があるなかで、参加者本人だけでなく家族も含めて落ち着いた環境で成人を祝うことが重要。開催方法を含めて有意義な成人式になることを願っている。

【協議事項】(3)について

(委員) 公民館はもともと、いわゆる三密を目指して活動するような部分がある。人づくり、絆づくりを考えると、いかに多くの人に集まってもらうかが公民館の役割だと思う。そういったことができない状況で、公民館の存在価値をどのように高めていけば良いか、公民館職員は苦勞されていると思う。鬼無里公民館では、オンライン講座を開催するにあたり、どのように環境を整備したのか。オンライン講座を開催する技術や環境がなければ、必要性を感じていても実際に開催できないと思う。

(事務局) 鬼無里公民館でも、オンライン開催自体が初めてで、実行するまでに苦勞した。職員のスマートフォンを使用し、Zoomを試したりもした。最終的に情報政策課へ依頼し、市のWEB会議システムを使用して開催することができた。

- (委員) コロナが感染拡大する前のような、人が集まって交流する中で関係性を築くという状況に簡単には戻れないと思う。社会情勢が変わっていく中で、お互いに距離を保ちながらゆるやかに共鳴していく社会が、これからの公民館活動の目指す方向だと思う。鬼無里公民館の方法は、これからの新しい公民館の姿の一つだと感じる。オンライン講座を開くにあたっては、環境整備や人材が必要であり、市としても支援していかなければならないと思う。
- (委員) 鬼無里公民館の講座は6組参加したが、Zoomは何人まで参加可能なのか。
- (事務局) このとき参加したのは5名と講師。最大何人まで参加可能かは不明。
- (委員) オンラインが活用される中で、公民館のWi-Fi環境を整備する計画はあるのか。
- (事務局) 公民館は将来的にオンライン講座を行っていくことになるかもしれないが、現状だと利用者は高齢者が多く、また、どちらかという仲間が集まって交流することを楽しみにしている方も多い。ただ、将来的には費用的な面も踏まえてWi-Fi環境の整備について研究していく必要があると感じる。
- (委員) 長野市は広いので、会場に集まれる方は会場で、集まれない方はオンラインで参加するといった選択ができれば良い。
- (委員) 近隣地区の公民館で講座を共同運営し、市教委がそれを支援するという形もできると良い。
- (委員) 今回のWEBシステムを上手く使うと、長野市内の各地区の方と講座を共有でき、違う地区に住んでいる方を、これまでよりも身近に感じられるようになるのではないかと思う。コロナ禍をマイナスとだけ受け止めずに、プラスの意識で見ていただけるといいのではないか。
- (委員) オンライン講座の開催は、遠方だからといった理由で参加を断念することがなくなることや、孤立化を防ぐ素晴らしいシステムだと思う。ただ、職員の配置などの人的な補償や、バージョンアップしていく機器の管理を市が保障していくという予算面での後押しが必要と感じる。難しいのは、閲覧や編集の権限、参加費についてである。情報をきちんと管理するために、共有の範囲などを適切にすること、また、最新で信頼性の高い情報を提供していくことが重要。さらに、必要なメンバーにそれが妥当に享受できるようにすることなど、新たな問題を解決していくことも必要である。
- (委員) 篠ノ井交流センターの実践発表を聞いた中で、住自協の活動が定着していると感じたので、それを母体として連携していくことで、非常に幅広い柔軟な体制ができるのではと感じた。
- (委員) 先ほど他の委員から、公民館活動は本来、三密を目指すものといったお話があったが、私も同感であり、公民館で顔を合わせて会話ができる環境が理想的だと思う。しかし、コロナ禍では不要不急の外出を避けるという基本路

線がある中で、あえて集まる必要はあるのか疑問に感じる部分もある。

- (委員) オンラインも良いが、直接会って話をすることも非常に大切。コロナ禍では、子育て中の母親達は特に引きこもりがちになってしまうため、孤立した子育てにならないためにどうすべきか考えなければならない。施設を開ける場合は、感染対策をしっかり行っていることを知っていただくことで、ある程度安心して利用していただけたらと思う。また、長野県では電子申請サービスで講座の申し込みを行える。市でも同様に申し込みができれば良い。
- (事務局) 委員の皆さんからいただいた様々なご意見は、私達も日々課題として考えているところである。よりよい講座にするために、ウェブ開催やWi-Fi環境の整備などについても研究していきたい。
- (委員) 先日、更北公民館 YouTube チャンネルが開設されているのを見た。コロナ禍で行った講座等を YouTube で閲覧でき、公民館で活動している参加者の存在感を高めることに貢献していると感じた。YouTube チャンネルは他の公民館でも開設できると思うが、管理する人材がいないと難しい。ただ、コロナ禍において、新しい可能性を見出していると思う。他の公民館にもこうした新しい取り組みを広げてもらえると良い。

以上